



会長年頭挨拶

市立札幌病院 野崎 正行

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。この新しい年が皆様にとりまして実り多い1年となりますよう心からお祈り申し上げます。今年も1年どうぞ宜しくお願い致します。

昨年は細胞検査士会が創立50周年を迎え、11月に福岡市で記念式典、記念祝賀会が盛大に開催されました。北海道からも多くの皆様に参加して頂き、無事終了することができました。皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。また創立50周年記念式典では細胞検査士会功労賞の受賞式が行われ、北海道からは白川洋三さん（PCL札幌）、中村厚志さん（市立札幌病院）、田上稔さん（大野記念病院）の3名が受賞されました。長年の功績に敬意を表しますと共に心からお慶びを申し上げます。おめでとうございます。なお、創立50周年記念誌作成も進められており年内には発行される予定です。

北海道細胞検査士会も2020年には創立50周年を迎えます。創立30周年は西暦2000年のミレニアムの年でしたが、創立50周年は東京オリンピック開催の年になります。当会も記念式典や記念祝賀会などの記念事業の企画と準備を始めていきたいと思っております。

さて今年、2018年は冬季オリンピック平昌大会の年であり、多くの選手のメダル獲得が期待されております。また北海道は1869（明治2）年に北海道と命名されてから、今年で150年目という大きな歴史の節目の年を迎えました。今後、様々な事業や道政改革が展開されるようです。医療分野においては診療報酬が改定の年でもあります。細胞診関連ではLBCや体腔液の免疫染色などの診療報酬点数の改定や新設が大きく期待され、望まれているところです。そんな中、日本臨床細胞学会大会が20年ぶりに札幌医科大学産婦人科齋藤豪教授の大会長のもと、第59回日本臨床細胞学会総会春期大会が札幌で開催されます。一般演題数も400題を超え、開催に向けた準備が進められております。大会の成功に向けて北海道の会員皆様のご協力をお願い致します。

平成29年度の当会の事業も、残すところ細胞診従事者講習会・総会となりました。今年の細胞診従事者講習会は頭頸部を対象臓器としました。特別講演として隈病院の廣川満良先生をお招きし「甲状腺細胞診の実際と報告様式」の講演をして頂きます。また例年行っていたシンポジウムをワークショップに変え「唾液腺腫瘍を学ぶ」をテーマに恵佑会札幌病院の大内知之先生を始め、4名の講師による講演を予定しております。開始時間が早くなりますが、多くの皆様の参加、総会への出席をお願い致します。

今年も役員一同、スムーズな会の運営を心がけ活動して参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。また、重ねてメーリングリストへの登録もお願い致します。

検査 de フェスティバル（9月3日）活動報告

北海道対がん協会 柳沼 純子

9月3日に地下歩行空間にて行われました「検査 de フェスティバル」に参加いたしました。私にとっては初めての技師会活動への参加ということもあり、最初は少し緊張していたのですが、大学時代の恩師や友人の姿を見つけうれしく感じました。要員が集合したところで協力して会場の設営を行い、11時ごろからイベント開始となりました。会場では肺年齢測定や頸動脈エコー、自己血糖測定、骨密度測定のような検査を始め、がん撲滅コーナーでの乳がん触診体験、細胞診に関する資料の展示などが行われました。通常であれば医療機関でしか受けられないような検査が無料で受けられるということもあり、大盛況となりました。参加者にはシールラリー形式で検査を受けていただき、シール3枚以上で景品と交換。私もひそかに狙っていたのですが、あっという間に配布は終了していました。参加者の方からは測定結果や臨床検査技師の業務に関するご質問もいただき、今回のイベントを通じて、私たち臨床検査技師の仕事や社会的な役割について知っていただけるきっかけとなったのではないのでしょうか。

私は主に子宮頸がん・HPVウイルスに関するアンケート、パンフレット、うちの配布を担当させていただきました。事前に準備しておいた配布物セットとアンケート用紙を手に、スタッフ一同、大きな声で呼びかけを行いました。その結果、イベント終了までの間に500部ものアンケートにご協力いただくことができました。個人的な印象としては、50～70代の女性の方によく受取っていただいたように思います。しかし、子宮頸がん発症のピークとなる20～30代の方には、思うようには受取っていただけませんでした。以前参加させていただいたLOVE49キャンペーンの時と同様、呼びかけの難しさと今後の課題を感じました。

14時にイベントは終了し、15時ごろには連係プレーにより会場はきれいに片づけられました。その後、近くの店に場所を移し反省会となりました。初めてお会いする方が多かったのですが、とても温かく迎えていただきました。今回は貴重な経験かできましたと思います。皆様、どうもありがとうございました。

第38回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会 終了

昨年11月26日(日)、札幌医科大学臨床教育研究棟において、第38回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会が開催されました。学会長である今 信一郎 先生のもと、一般演題16題 スライドセミナー3 症例、特別講演として 国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科の元井紀子先生をお招きし「肺癌の個別化医療—病理の立場から」と題してご講演頂き、多数の会員の参加により、盛会のうちに終了しました。(文責 内田)



第56回秋期大会 学会見聞録 福岡市



「第58回日本臨床細胞学会総会（秋期）に参加して」

手稲溪仁会病院 片山 雄貴

今回は初めての全国学会参加、初めての博多ということでとても貴重で思い出深いものとなりました。九州は寒波の影響か、思っていたより寒く、薄着で行ったことをかなり後悔しました。行きの飛行機が遅延しクタクタになりながらも博多に到着しました。全国学会は私の想像を遥かに超える規模と人の数で「これが全国か！すごい！」と心を躍らせました。会場の広さもさることながら、一般公演の他、ポスター発表、シンポジウム等、プログラムの多さに驚きました。

数ある講演の中でも私が最も注目しているのは、EUS-FNAの課題と工夫についての講演です。EUS-FNAの最大の課題としては適正検体の採取量、採取された検体に混入した血液成分です。それらの課題を改善するために的確な細胞採取はもちろんのこと、血液成分に埋もれてしまったわずかな組織を見分け、血液成分と組織成分を別々にホルマリン固定し標本化することで組織診断の精度を向上させていました。その際に溶血作用のあるLBC細胞保存液(サイトリッチレッド)で検体を洗浄することで組織を見分けやすくすると共に、その保存液で細胞診の検査も行うことで無駄のない標本作製を行っていました。

我々、細胞検査士は現場に同席し、細胞採取量は十分か、検体の質に影響する血液成分が多くないか、最終的な鑑別診断等、重要な仕事を担っています。細胞検査士が同席した場合とそうでない場合とでは、同席した場合の方が明らかに適正検体の採取率や正診率が高いという結果を目の当たりにしました。細胞検査士の責任の重さ、重要性を再認識することが出来ました。

夕食は北海道の細胞検査士、医師の方々が集い、もつ鍋を食べに行きました。本場のもつ鍋や福岡の郷土料理はどれも美味しかったです。先輩方は良い人ばかりで緊張している私に優しく声をかけてくださり、とても楽しく過ごすことができました。このような機会を与えてくださったことに感謝いたします。

2017年細胞検査士認定試験合格者 おめでとう 新たな仲間たち

加藤 知美（斗南病院） 漆原 彩華（帯広厚生病院）
福田 彩夏（帯広厚生病院） 諸岡 亜早美（北大病院病理部）
岸 千夏（北海道がんセンター） 十河 沙佑里（北海道消化器科病院）
荃田 力（市立旭川病院） 平川 彩香（手稲溪仁会病院）
伊藤 美香子（札幌医科大学附属病院）
竹浪 智子（北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室）
山本 麻衣子（函館五稜郭病院）
佐々木 萌花（市立函館病院） 佐藤 大樹（市立函館病院）
昆 泰浩（江別市立病院）

（敬称略）

細胞検査士認定試験を終えて

北海道大学病院 病理部 諸岡 亜早美

去年は一次試験にて不合格だったので、今年是一次突破が第一目標でした。一次試験は、自施設で同じく受験する方と進捗を報告しあいながら勉強しました。一人で勉強していた昨年よりもモチベーションを高く保つことができたように思います。二次試験の勉強は、業務終了後から鏡検を行っていました。自施設で大体の標本はそろっていましたが、職場の先輩方に疑問点などを教えてもらうことができ、環境的にとても恵まれていたと思います。今年の二次試験は受験者の人数が多く、私のグループは午前8時30分集合で実技、面接、同定試験、4時間程度の空き時間をはさんでスクリーニング試験という流れで、試験終了は午後7時ごろでした。試験後は何の手ごたえも感じることができず、正直なところ受かるとは思っていなかったもので、合格発表のときはとても嬉しかったです。今回の合格は、細胞診を教えてくださいました当院の先輩方をはじめ、講習等にて学ぶ機会をくれた多くの方々のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

札幌医科大学附属病院 病理部 伊藤 美香子

「1次は合格しないと！」と思っていたので、コツコツと過去問を解き、隙間時間にアトラス見たりしていました。とにかく力が入っていたので、1次はとても緊張しました。試験場もピリリとした空気で、受験者も沢山いたので、緊張感を煽られてしまいました。そのため、1次後は気が抜けてしまい、なかなか勉強に身が入らず・・・な状態でした。これではいかん、と思いながらも、そのまま2次に突入しました。しかし、そのおかげ(?)か、2次は力が入り過ぎることなく、受けることができました。試験監督の方も「リラックスして」等、声をかけてくれたので、2次は1次よりも和やかな雰囲気を感じました。2次はあまりにも手応えがなかったので、ダメかな・・・と聞いていましたが、合格だと分かると、「やったー！」と嬉しかったの半分、「ああ、良かった・・・」とほっとした気持ち半分でした。細胞診を教えてくださいました皆様、どうもありがとうございました。お陰様でなんとかなりました。バンザイ！

今後の予定

「全国」

- 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会（札幌）平成30年6月1日（金）～3（日）
ニトリ文化ホール、ホテルさっぽろ芸文館、ロイトン札幌
- 第57回日本臨床細胞学会総会秋期大会（横浜）平成30年11月17日（土）、18（日）
パシフィコ横浜

「北海道」

- 第30回細胞診従事者講習会：平成30年3月4日（日）
札幌医科大学臨床教育研究棟 臨床大講堂
- 北海道細胞検査士会総会：平成30年3月4日（日）
札幌医科大学臨床教育研究棟 臨床大講堂
- Love49：平成30年4月8日（予定）
- 第37回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会：平成30年12月2日（日）
北海道大学フラテホール

メーリングリストへの登録のお願い

会員への情報伝達手段の一つとしてメーリングリストを開設し、北海道臨床細胞学会や北海道細胞検査士会からの情報配信に利用しています。未登録の方々はお参加をお願い致します。

メーリングリストへ登録をして頂ける方は、

- ①メーリングリスト管理者（徳永 y1tokuna@d9.dion.ne.jp）までメールを送って下さい。

【件名】は「メーリングリスト参加」として下さい。

【本文】には、所属地区、施設名、お名前を記載し送って下さい。

- ②管理者が登録をしたら、“登録完了メール”が配信されます。



<編集後記>

今年の干支は十二支のうちの11番目にあたり、季節でいうと晩秋に例えられ収穫の時期イコール結実を表す年になります。これまで続けてきた様々な取り組みや努力が報われる形が戌年。そして収穫が終わり新たな気持ちで次の出発の時期でもあります。必ずしも自分の思った結果になるとは限りませんが、努力した事は決して無駄になる事はないと思います。自分を信じ新しい年に向かって新たな気持ちで進みたいものです。<総務 内田>